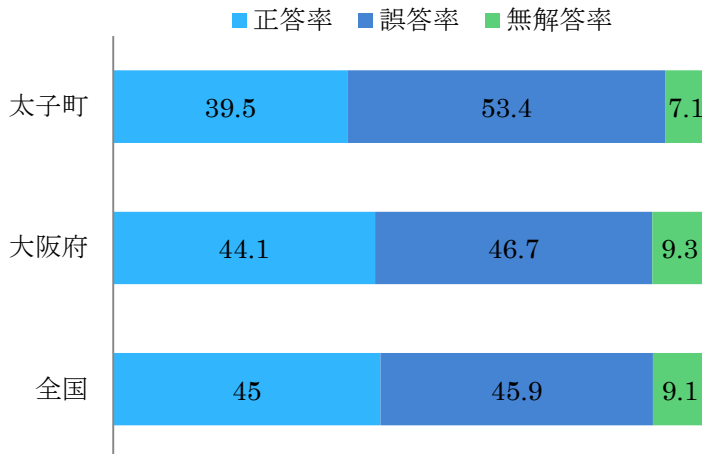


# 平成 27 年度 全国学力・学習状況調査

算数 B

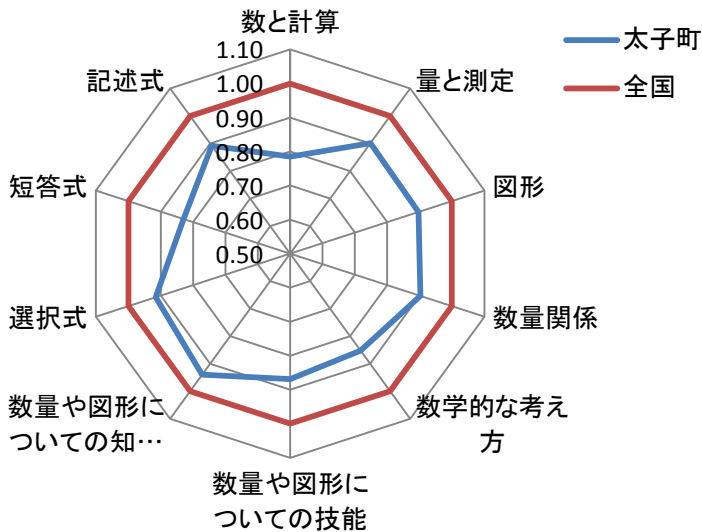
## 正答率比較



全国の平均正答率が、45%であるのに対し、太子町の平均正答率は39.5%であり、5.5ポイント下回った。

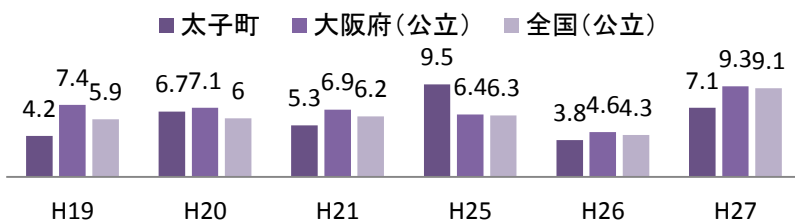


## 全国平均正答率を「1」としたときの大阪府・太子町の平均正答率との比較



全体的に全国平均を下回り、対策を立てる必要がある。特に数と計算や数学的な考え方など、これまでの学習の根本的な部分の見直しが必要である。

## 無解答率



無解答率は経年比較すると、昨年度より全国的に上昇していることがわかる。平成27年度は、全国平均よりも2.0ポイントとなっている。



## 成果と課題

正三角形の性質をもとに、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求める問題や四捨五入し、千のくらいまでのおよその数にして計算する問題などで、全国平均を大きく下回った。割合に関する問題では、正答率は極端に低かった。

総じて「記述式」では正答率は低い傾向にあり、その理由・根拠をきちんと理解し、周りの人にその内容を説明する練習が必要であり、そのための理解力をつける必要がある。